



子は宝

校長 能登 正明

この春も期待に胸を膨らませた一年生や教職員を迎え、新しい一年がスタートしました。今年度も、ご家庭や地域のご支援をいただきながら、子どもたちのために教職員一同、力を合わせて教育活動に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

昨年、児童虐待の疑いがあるとして、警察が児童相談所に通告した18歳未満の子どもが、全国で10万8059人とこれまでで最も多くなったというニュースがありました。このようなニュースを聞くたびに、思い出す歌があります。今から1200年以上昔に編まれた「万葉集」にある山上憶良の歌です。

「^{しろかね}銀も^{くかね}金も^{たま}玉も^{なに}何せむに^{まさ}優れる^{たから}宝子に^こしかめやも」

(銀も、金も、珠玉も、どうしてすばらしい宝である子どもに及ぶだろうか。)

『万葉集(二)』2013年 岩波文庫

学生時代、教育学を学ぶ中で教えてもらった歌です。この歌を教えてくれた教授によると、日本は世界の中でも子どもをとて大切にする国だということです。江戸時代に来日したオランダ人の医者が日本の子どもたちを見て、「この国では、どこでも子どもをむち打つことはほとんどない。子どもに対する禁止や不平の言葉は滅多に聞かれないし、家庭でも船でも子どもを打つ、たたく、殴るといったことはほとんどなかった。」という言葉を残していることも教わりました。このような、子どもを大切に思う伝統は、今の日本でも多く残っているのではないかとのことでした。

子どもを大切に思う気持ちというのは、親だけではなく社会全体で昔から脈々と受け継がれてきているものです。これからも、子どもたちを大切に思う気持ちを基本に、保護者や地域の皆様とともに教育活動に取り組んでいきたいと思ひます。

今年度も新型コロナウイルス感染症が心配されますが、できることを着実に進めながら、子どもたちの笑顔を大切にしていきたいと思ひます。昨年度に引き続き、温かいご支援、ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。